



1はじめに

毎年秋になるとあちこちで花々が咲き乱れ、毎日を忙しく過ごす人々に安らぎを与える空間を作り出しています。

こういった花の中には、水田転作の「景観作物」として導入された草花も多くあります。

今回は、茨城県美野里町でのその取り組み事例と、今後の「景観作物」としての導入が期待される草花をご紹介致します。

取り組み事例については、茨城県東茨城郡美野里町役場の産業課白井福夫氏に、その種まき、管理などについて、お話を伺いました。

また、今後が期待される草花としては、春播きの一年草の中から、性質が強健で育てやすい草花をご紹介致します。

2 美野里町での取り組み

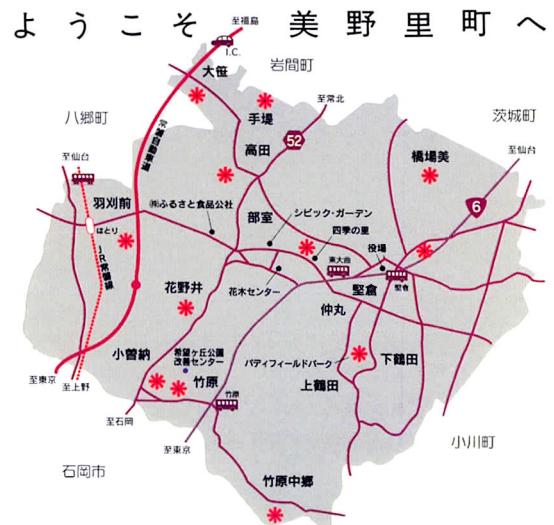
美野里町では、平成3年より転作作物としてコスモスを取り上げ、取り組みを行なってきました。

10月の上旬頃になれば美野里町は美しいコスモスで文字どおりいっぱいになり、コスモス祭りも開催されます。

初年度は7haの規模から始め、今では60haにコスモスを播種しています。

コスモスは面積がまとまっていたほうが圧倒的な景観を作り出せるため、その60ha(図1)もバラバラな場所に配置するのではなく、なるべくまとった面積を確保できるように配慮しています。

美野里町での助成補助金内訳は図2のようになっています。



美野里町のコスモス畠一覧		
希望ヶ丘公園のコスモス	8.0 ha	400万本
竹原中郷のコスモス	6.7 ha	335万本
四季の里のコスモス	3.0 ha	150万本
パティフィールドパークのコスモス	13.0 ha	650万本
高田のコスモス	4.4 ha	220万本
大笠のコスモス	5.5 ha	275万本
橋場美のコスモス	8.7 ha	435万本
堅倉のコスモス	3.0 ha	150万本
手堤のコスモス	3.7 ha	185万本
羽刈前のコスモス	1.0 ha	50万本
その他	3.0 ha	150万本
合計	60 ha	3.000万本

図1 美野里町のコスモス栽培地図

3 作業順序

それでは、実際に美野里町で今年行なわれた作業などについてご紹介いたします。

1) 播種時期

種まきの時期は7月20日頃を中心に7月上旬～8月上旬にかけて行なわれています。

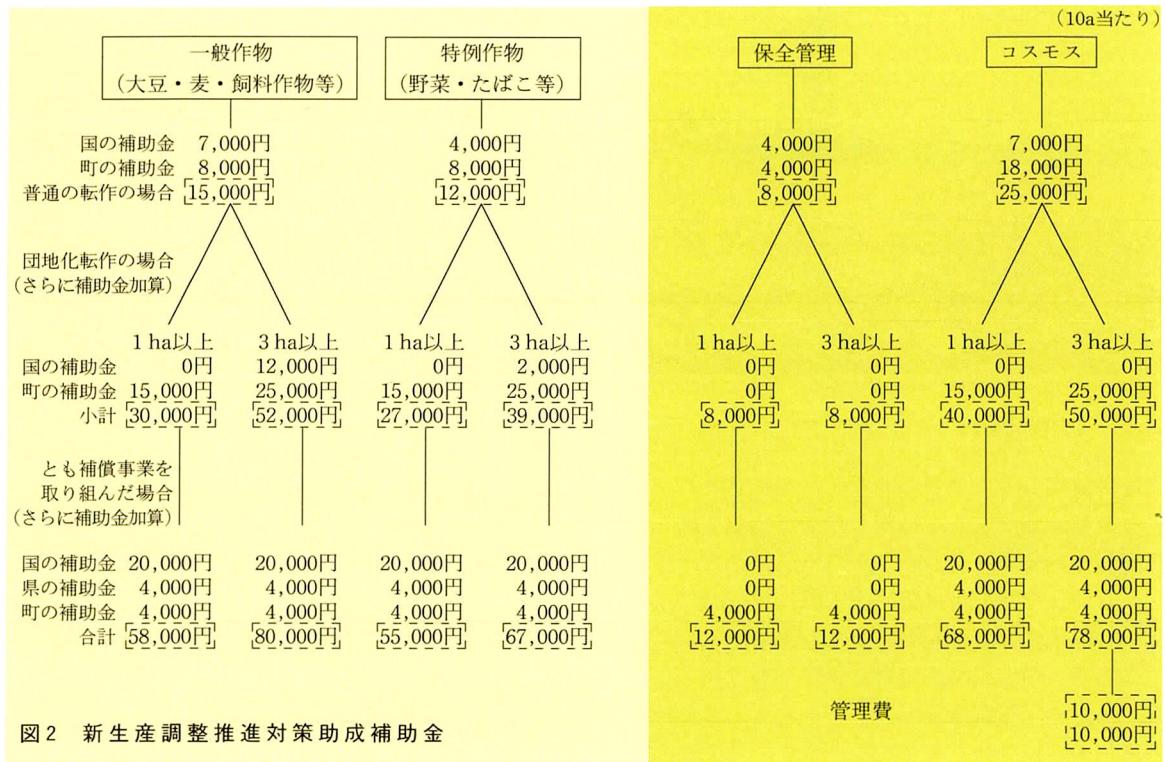


図2 新生産調整推進対策助成補助金

コスモスの種まきというと5月から6月頃に行なわれるのが普通で、乾燥が心配される梅雨明けに種を播くことはあまりありません。

ところが、この美野里町では、経験上この時期を選んで種を播いています。

この時期に播種する理由としては、雑草の生育のしにくさと、コスモスの草丈が低く抑えられるという2点が挙げられます。

この乾燥の激しい時期の播種は、水の確保やすい水田転作ならではといえるでしょう。

2) 播き方

管理のしやすさを考え、すじ条に播いています。すじとすじの間隔は60~80cm位とっています。

このくらいの間隔があれば、中耕管理機での除草管理もでき、また、コスモスが大きくなつてくれば間隔も目立たなくなります。

このすじの付け方は、コスモスを観賞する視点を考慮して決めています。

視点からすじが見えないようにすることによって、広がりのある空間の確保に努めています。

播種作業や除草剤散布作業は、農家同士の協議会からの要請で請負業者などに委託するようにし

ています。

その委託費用は管理費でまかなえる範囲としています。

3) 除草

コスモスは非常に粗放に耐える草花ですが、生育初期の雑草には注意が必要です。

そこで、播種時期を考慮し雑草の生育しにくい環境を選んでやるとともに、除草剤の併用が必要になります。

除草剤は、播種直後に、トレファノサイド、ゴーゴーサンなどを使っています。

しかし、状況によってはこれだけでは雑草が繁茂してしまう場合もありますが、中耕管理機や、手取り除草などの管理は農家の皆さんにお任せしています。

美野里町のコスモスの評判を落とさないために、皆さん進んで除草作業に励んでいらっしゃいます。

また、播種する前から雑草には気を使い、圃場が空いている間は何度も耕起を行い、常に雑草を繁茂させないようにしています。

4) 肥料

肥料は基本的にはやっていません。というのも



写真1 キバナコスモス

前作の肥料が残っていますし、肥料をやりすぎると草丈が高くなってしまい、倒伏などによってきれいな景観を保つのが難しくなるからです。

元肥はやらず、生育の劣る場合のみ追肥で調節するように考えていますが、まだ追肥をやったところはありません。

5) 苦労点

きれいなコスモス畑が取り上げられ、順調に見える美野里町のコスモスにも悩みや、苦労が絶えません。

まずは、水田であっただけに、駐車場やトイレの確保が難しいということが上げられます。

圃場は毎年別の場所に設けているため、駐車場などの確保のために毎年頭を悩ませています。

また、圃場を毎年変えて播種することは、畠地雑草を圃場内に増やさないためにも必要なことです。

実際に同じ圃場にコスモスを何年か播種している場所もありますが、年々畠地雑草は増えてきています。

今後も雑草対策については、気をゆるめることなく、検討していく必要があります。

最後に、今後力を入れたい目標として、地元へ



写真2 ジニア（百日草）

の貢献が上げられます。

コスモス観賞に来て下さった皆さんに楽しんでもらいながら、地元にも貢献していくため、今後も知恵を絞っていきたいと考えています。

4 景観作物として今後期待される草花

以上美野里町でのコスモスへの取り組みについてご紹介致しました。

それでは次に、景観作物として今後使用が期待されている他の草花について、ご紹介致します。

1) 黄花コスモス（写真1）

黄花コスモスはコスモスの中でも、鮮やかなオレンジ色や黄色の花を咲かせるコスモスで、「オレンジフレア」「ディアボロ」「サンライズ」「サンセット」など品種も揃っています。

桃色や白色のコスモスと同じように暑さに強いので、生育初期の雑草にさえ注意すれば、粗放な管理に耐えます。

また、生育が早く、適期であれば播種後50日位で開花し始めます。

中でも「ディアボロ」は朱色に近い冴えたオレンジ色、「サンライズ」は明るくはっきりした黄色



写真3 クレオメ（フウチョウソウ）

なので、この2品種を混ぜるとたいへん目をひく景観が出来上がります。

2) ジニア（百日草）（写真2）

ジニアは別名百日草とも呼ばれる、昔から夏に楽しまれてきた花です。

性質が強健で、開花期も長いわりにあまり使われておらず、今後が期待されます。

花の色はピンク色、黄色、白色などのミックスでボリュームのある花を咲かせます。

3) クレオメ（フウチョウソウ）（写真3）

クレオメは別名フウチョウソウとも呼ばれるたいへん性質の強健な草花です。

草姿はやや粗い感じもありますが、そのわりには繊細で涼しげな花を次々と咲かせます。

色はピンク色で、群生する姿はコスモスに負けない美しさです。

ただ、美しいものにはとげがあるということわざ通り、クレオメも枝にとげがあるので、子供が花畑に入る場合には注意が必要です。

4) ひまわり（写真4）

ひまわりは、皆さん良くご存知の夏を代表する花ですが、いままでは草丈が高くなり、倒伏することが問題となっていました。



写真4 ヒマワリ（スターインスター）

今回ご紹介するひまわりの品種「スターインスター」は、草丈が低めに抑えられ、また揃いが良い品種です。

草丈は1.5m位ですので、草丈2.5mを軽く超える「ロシア」ひまわりなどに比べて倒伏しにくく、花を間近で楽しむことができます。

5 おわりに

草花を播いた上での成功的ポイントは、雑草の処理にあるといつても過言ではありません。暑い盛りの除草は大変な作業ですが、美野里町のように除草剤の使用や中耕管理機の使用などをあらかじめ検討しておくことによって、労力を削減することもできます。

美野里町では、今ではコスモス祭りに集まる皆さんの笑顔のために、進んで作業を行う風潮が根づいていたようでした。

これからもコスモスの町として、また、それ以外の草花もいっぱいの町として、美野里町のますますのご発展をお祈り致します。

最後になりましたが、今回取材させていただきました美野里町役場の白井福夫氏に心から感謝申し上げます。